

メイブレーブ  
董

クマトロ

1：おはよ「ジギ」います、旦那様（屋敷内自室／朝）

（ノックの音）

（位置右・遠く／有聲音／ドア越し）

旦那様、メイド長の董（すみれ）ジギコます。  
入つてもよろしいでしょうか？

はい、失礼いたします。

（ドアの開閉音）

（位置右・遠く／有聲音）

旦那様、おはよ「ジギ」コます。

朝です。

起きてトセ「ませ」。

（董の足音）

（カーテンを開ける音）

（位置左前・遠く／有聲音）

ほら、「」覽下さい。

「」なんにも晴れて、とても気持ちは重々承知しておりますが、  
せつかくの休日。

まだ眠っていたいお気持ちは重々承知しておりますが、  
休日だからと「」て、自堕落なお過「」し方は見過「」せません。  
いいえ、いけません。

そんな甘えた猫の様な声を出されても、

私（わたし：以下共通）はなびきませんよ。

それに旦那様。

本日はスペシャルリラクゼーションパートーデ「」コます。

左様です。

私含め、総勢八名のメイドによる、癒し呪文の旦。

旦頃からお疲れの旦那様を癒して差し上げたいと、メイドたちは意氣込んでおります。

ですので旦那様。

早速ではござりますが、施術着に着替えて頂きます。わあ、一九四五へ。

(聴き手の足音)

(着替える衣擦れ音)

(位置正面 中間／有聲音／やや小声)

一九へ腕を通して下さい。

ええ…、えうです…。

ではいらっしゃも…。

はい、準備は整いました。

それでは早速、私から。

先ずはお耳を温かい綿のタオルで、ササッと拭いて参ります。そのあとは、爪や指先などの、ハンドケアをいたしましょう。さあ、そつうの椅子におかけになつてお待ち下さい。

(椅子に座る音)

(董の足音)

(位置正面 中間／有聲音／小声)

では旦那様、お耳を拭いて参ります。  
蒸しタオルを少し冷まして…。

(タオルを冷ます音)

「これくらいでしうか…。  
では失礼いたします。

(耳を拭く音)

いかがでしょ？

お熱くせ、じやるこませんか？

はい、では続けて参ります。

温かいタオルでお耳を拭いて…。

お耳が温まると直行もよくなれる…。

わざわざ、寝起きでボーッとしていた思考も、パッと晴れてしまませんか？

ふうひふ

それは何よ、じやるこませんか？

ではじつへへつ、やけへじく、拭いて参ります♪

(じばりへ耳拭きの音)

(位置正面／中間／有聲音／かなり小声)

わんわんでしょつか。

あら、まだ足りませんか？

心地いいかもしだれませんが、やつ過ぎもとへあつません。

ええ。

やり過ぎはお耳の皮膚を、傷付けてしまつ可能性もありやります。  
ですから、このへうごにいたしましょつ。

(ハンドケアセットを準備する音)

続けて、ハンドケアです。

爪の先を整えて参りますので、お手をじやりへ…。

(位置左前・中間／有聲音／かなり小声でゆづく)

それではじやりかひ…。

(爪を磨く音)

伸びてきた爪は切る、といつのが普通ですが、

実は切ると、爪が割れやすくなる原因になるんです。

ですから、じやりへて、切り落とし寧に磨いて参ります。

勿論、切る方が早く済むでしょう。

ですが旦那様には、綺麗な指先を維持していただきたいですから…。  
ええ。

そのためのスペシャルリラクゼーションパートナー、ドアガードもすみふ。  
先ほども申しましたが、メイドたちは「」の田のために腕を磨いておられます。  
最高の時間を旦那様に過ごしていただきたい。

旦那様あつての我々メイドですから、そう思つのは当然でドアガードもす。  
ええ。

メイドたちはその話題で、いつも持ち切りなのです。

ですので旦那様。

期待、していって下せりませふ。

ふふつふ。

いいお顔。

旦那様も「」の田を、楽しみにやれていたのですね♪

では私も、「」満足いただけの様、努めます♪

### (じばりく／爪を磨く音)

はい、ではわらわの反対の爪の先を、整えて参りましょ。

### (位置右前・中間／有聲音／かなり小声でゆづくり)

「」の田も、ゆづくり優しく、爪とお肌を傷めない様に…。

### (爪を磨く音)

「」のあとですが、お耳のオイルマッサージをして参ります。

紫織さんがまた新しいワザを身に付けたと仰っていました。  
はい、楽しみでドアガードもすね♪

紫織さん、普段から口数は少ないですが、流石はゲーテランメイド。

田々のお給仕を「」なしつつ、「」の田のための探求も欠かさない。  
とても真面目な子…。

あ、それついで。

うつかり見てしまったんですが、マッサージの練習をしながら、

「旦那様、喜ぶかな」ですって♪

ふうひふ

ええ、可愛いやしこですね♪

私にはない、いい一面を垣間見る事が出来ました♪  
え?

私にもある?

(照れ隠しの演技)

ええと…、可愛いやしこ所が…、でしようか?

もう、旦那様つたり。

ゞゞ冗談はおやめ下せ。

へ?

わう…、でしようか…。

(弦く様に) 私が可愛いやしこ…。

はあ…。

旦那様がそつぽるのでしたら、嬉しいです。

ふうひふ

旦頃から感謝しておりますが、本日は特別に、

ハンドケア、いつもより多めにいたしましたよ♪

(ハジメで)

(じばいづく爪を磨く音)

(少し照れくせんいつな鼻歌)

ふんふんひふ

ふんつふんひふ

ふつううんひふ

ふんつふんひふ

(小さく笑う) ふふつ。

(ニニまで)

(位置正面 中間／有聲音／小声)

はい、では爪のお手入れは以上で『ジギ』います。

お次は保湿ケア。

(ポーチからハンドクリームを取り出す音)

「こちらの保湿クリームを塗りこんで参ります。

本日使用するクリームは、白檀（びやくだん）の香りで『ジギ』います。

英語圏では、サンダルウッドと呼ばれる香り…。

ほんのり甘く、その香木（ニラボク）は貴重で高価。

そんな香木から抽出したオイルを含んだ、特別なクリームで『ジギ』います。

ええ。

旦那様に気に入つて頂けるのではと、お取り寄せいたしました。

(手にクリームを馴染ませる音)

香り、いかがですか？

そう、それはよかつたです♪

ふふつ♪

ではこれを、旦那様の手に…。

(位置左前・中間／有聲音／かなり小声でゆつぐり)

「こちらから塗りこんで参ります。

失礼いたします。

先ずは手先から…。

手先、というのは、意外と人の目に触れるもので『ジギ』います。

ですので、しつかりケアをして、清潔感を保つのがポイントです。

はい、お任せ下さい♪

指先、特に爪の周辺は入念に…。

ぐつぐ…、ぐつぐ…、ぐつぐ…、ぐつぐ…。

力を入れ過ぎず…、クリームを擦り込む様に…。

ぐつぐ…、ぐつぐ…、ぐつぐ…、ぐつぐ…。

段々と手先がポカポカしてきてしませんか?

そうでしょう♪

血行がよくなり、じんわり手先が温まつて参りました♪  
では続いて指の間も忘れないに…。

指の間は、皮膚が薄くて荒れやすいとです。

ですので、こいつもしっかり保湿してあげましょう♪

旦那様、少し指を開いて下さいますか?

そうです。

パツと広げる感じで。

はい、あっがとう♪

では旦那様の指の間に、私の指が挟まる様に…。  
もうしましたり今度は少し指を閉じて頂いて…。

「うする事で、効率よく指の間にクリームを塗る事が出来るんですけど?」

恋人つなぎ?

あつ…。

そのつ…、ちがつ…、ええと…。

「うへ、これは…、セジゅぢゅ…。

あ…。

(咳払い) う、うんつ。

施術…、ですのひ。

(澄ました感じで) 噛んでおりません。

(強調して) 齧んでおりません。

あ、それいつづいたり、施術、ここで終わりにいたします?  
じょう…だん?

ああ…あー、ええと…、それは存じておりましたが…。

(強調して) いいえ、存じておりました。  
んん…。

旦那様つたら、いじわるなんですから…。

(語氣強めで) では、続きをして参りますつ。

(弦く様に) まつたぐも…。

(しづく指の間にクリームを塗り込む音)

ではねうそう、手の平へ移りましょう。

旦那様の手の平と手の甲を、挟む様に包んで…。

「ひらもしつかり塗り込んで…。

手の甲もまた、皮膚が薄い部分ですし、手の外側に当たりますので、  
なにかと傷付やすし部位ですね…。

人間というのは、歩く時などに手を前後へ動かしますから、特に…。  
ええ、気付かない内にぶつけてしまい、怪我をして…、なんて事も。

旦那様の手は…。

ふふっ♪

とてもお綺麗ですね♪

ですが手の甲もまた、人の目に触れやすいですから、ケアを欠かさずに…。

(しづく手の平、手の甲にクリームを塗りこむ音)

はい、しつとり、つやつやになりました♪

それではお次は反対の手を保湿ケアをして参ります。

(位置右前・中間／有聲音／かなり小声でゆづく)

「ひらも、しつかり塗り込んで参りました♪

ハンドクリームを足して…。

(クリームを手に馴染ませる<sup>旦</sup>)

指先から、失礼いたします。

ぐつぐ…、ぐつぐ…、ぐつぐ…、ぐつぐ…。

爪と皮膚の間は入念に…。

ぐつぐ…、ぐつぐ…、ぐつぐ…、ぐつぐ…。

あ、わいわい。

女性って、意外と男性の指先を見ているんですね。

ええ。

それと、爪や指先を見て綺麗だと、好感度がグッと上がるんですねって。

はい♪

旦那様は今、好感度がグングン上がっておいでなのです♪  
ええ、旦那様の指先、とてもお綺麗ですよ♪

ふふ♪

どうやらお気に召した<sup>ジ</sup>様子♪

だつて、頬が緩んでるんですね♪

はい、では続いて指の間へ移りましょう♪

「うひも…、ああ…。

施術…、もう、施術をして参ります。  
え?

(ため息) はあ…。

もう…、ですから、恋人つなぎではありますんつ。

わざと仰っているの、気付いておりますよつ。

私をからかって、楽しいですか?

うん、って…。

んんん…。

旦那様は楽しいかもせんが、私は…、その…、嬉しい…、ではなくて、

照れてしまいますので、余りしゃべつ事は仰らないでトヤります…。  
ええ、そうです。

皆が皆、旦那様の冗談が通じぬ訳ではござらませるので。  
はい。

「理解頂けたのでしたら幸いです」とあります。

(しづく手の間にクリームを塗り込む音)

はい、では最後に手の平と甲を…。

(しづく手の平と甲にクリームを塗りこむ音)

はあい♪

ツヤツヤのプルプルになりました♪

新しい保湿クリームを使いましたが、痒みなどござらませんか?  
旦那様の肌に合った様、気を付けて注文はしたのですが、念のため…。  
そうですか、よかつた…。

香りはいかがでしょう?

ふうつ♪

とてもいい香りでござりますね♪

そんなに鼻をひくわせせて…。

またこの保湿クリームでハンドケアいたしましたよ♪  
はい。

次はお耳のオイルマッサージでござります。

紫織さんが待機しておりますので、交代いたしました。  
では旦那様。

「のあともゆづり、『堪能なナットドセラ』

私はこれで失礼いたします。

メイド必須

譲

クアトロ

2・オイルマッサージ、する（屋敷内自室／午前）

（ノックの音）

（位置右・遠く／有聲音／ドア越し）

旦那様、紫織。

入ります、ので。

はい、失礼します。

（ドアの開閉音）

（位置右・遠くから正面 中間へゆっくり移動しながら／有聲音）  
おや、ここの…香り…。

（位置正面・中間／有聲音／やや小声）

ええ…。

成程…。

白檀（びやくだん）の…。

董（すみれ）さん、また新しい保湿クリームを？  
やはり…。

いい香り…。

（独り言の様に）香りの事については、董さんにはかなわない。  
え？

ああ、はい。

お耳のマッサージ、始める。

旦那様はそのまま椅子にかけて、お待ちを。

今日は…、ええと…。

無香料のオイル、使う。

（オイルの瓶をチャップチャップと振る音）

せっかく白檀のいい香り、している、ので。

他の香りが混ざつたり、打ち消してしまっては、いけない。

どう?

はい。

そうする。

### (位置右前・中間／有聲音／小声)

じゃあ早速、オイルを手に取つて…。

### (キヤップを開けオイルを手に取る音)

手に、馴染ませる…。

### (オイルを手に馴染ませる音)

これは、他のオイルよりも少々粘度、高め。

オイル、というより、クリーム。

つまり、擦れる感覚、気持ちいい。

じゃあ、やる。

### (しぶり／マッサージ音)

どう?

気持ち…、いい?

痛くは、ない?

ああ、ええと…。

あたしの手…、素振り（すぶり）タコ、たくさん…。

そう、剣道。

毎日竹刀、握つてるせい…。

その甲斐あつて、五段まで昇段、出来きた。

でも手がこんな、ゴツゴツ、では…。

### (合間にマッサージ音)

もし痛かったり、不快だつたら、言つて欲しい…。  
え?

綺麗…?

(位置左前・中間／有聲音／小声)

あたしの手が？

旦那様、相変わらず、冗談、下手。

こんな「ゴツゴツした手、綺麗なはず、ない…。

はあ…、努力の証…。

旦那様がそう言つなら、その…、嬉しい…。

ああでも、旦那様のお耳を傷付けてしまつたらいけない、ので。  
もし痛みとかあつたら、我慢しないで、言つて。

はい…、約束。

(位置左・近く／有聲音／小声)

あ、そうだ。

旦那様。

ちよつと試したい事、ある。

やつても、いい？

(位置左前・中間／有聲音／小声)

新しい、ワザ？

え、なんでその事、知つてゐる？

はあ…、董さんが…。

いつの間にか、見られてた…。

(位置正面・中間／有聲音／小声)

うう…、恥ずかしい…。

ええと、その…。

やつぱりやめる…。

だつて、変に期待されると、やうこくい、ので。  
やつて欲しい？

(唸る様に) ううん…。

旦那様ががんばつぱつなり、やる。

ええと、あたしの手の平、ゴツゴツ…。  
だから、考えた。

(位置右前・中間／有聲音／小声)

手の平の母指球（ぼしおかゆう）。

「口なり、タ口、ない。

ほひ。

親指の付け根周辺、一番ふわふわしている所。

「口が母指球。

柔らかくて、ふにふに。

キツと気持ちいい、はず。

もう思って、たくさん練習、した。

(位置右前・中間／有聲音／小声)

どう?

そつか、よかつた…。

母指球でのマッサージ、細かい動き、出来ない。

だから、どうやつたら気持ちいいか、探つた。

ここから、新しいワザ。

(耳を塞ぎつつの耳マッサージ音)

これ、菊乃(きのの)ちゃんで、実験した。

そう、新人メイドの。

菊乃ちゃん、身悶えしてたので、旦那様にも、多分効いてる。

(位置左・近く／有聲音／小声)

(嬉しそうに)

ふふつ、やはり♪

よかつた♪

旦那様に、喜んでわいざつたかった、ので♪  
その、嬉しい…♪

え、「もつと」?

はは♪

もう少し、続ける♪

(「」まで)

(じぎひ／耳を塞がつつの耳マッサージ音)

(位置右・近く／有声音／小声)

はい、おしまい。

じゃあ、お耳、綺麗に拭く、ので。

旦那様、ジツとしてて。

(濡れタオルでオイルを拭き取る音)

(位置正面・中間／有声音／小声)

綺麗に、なつた。

どう、だつた?

「また、して欲しい」?

本当?

(嬉しそうに)

分かつた♪

する♪

また、練習して見る、ので♪

(「」まで)

じゃあ旦那様。

次は、耳かわ。

マッサージでほぐれたお耳の中、綺麗にする。

耳かきは、茅由梨（ちゅり）ちゃんが、する。  
そう。

いつもシンシン、茅由梨ちゃん。  
でも実は、旦那様の事、好き。  
だって、新しい耳かき棒買って、意気込んでた。  
今日のため。

旦那様のため。

茅由梨ちゃんも、旦那様の事、好き。

ああ、ええと…。

「も」つていうのは、あたし「も」つて意味。  
あたしの手、綺麗つて言つてくれた、ので♪  
あ、そうだ。

耳かきは、いつも通り、施術室で。  
はい、そう。

部屋の移動、必要。

**(位置右・密着／無聲音／囁き)**

じゃあ旦那様、あたしは下がる。

またたくさん、練習していくので、次も、楽しみにして♪

**(紫織が退室する音)**

メイド尽くし

茅由梨

クアトロ

### 3：耳かきの時間よ（施術室／午前）

（ノックの音）

（右・遠く／有聲音／（ドア越し））

旦那様～、茅由梨～。

入るわよ～？

は～い。

（ドアの開閉音）

（右・遠く／有聲音）

次は耳かきの時間よ。

（右・遠くから正面・中間へゆっくり移動しながら／有聲音）  
え～っと…、といふで…、耳かきはその…、膝枕でいいかしら…

（正面・中間／有聲音／やや小声）

（弾む様に嬉しい感じで）膝枕、そんなにして欲しいのね♪  
あ…、しまつ…。

はあ？

な、なによ～！

別に喜んでなんかないしね～！

旦那様がそう言つなら、やつてあげてもいいってだけ。  
そう、それだけ。

（落ち込んだように呟く）ああ…、またやつちやつた…。  
え？

ああ、ううん、なんでもない…。

（咳払い）う、うんっ。

（茅由梨が施術台に座る音）

（正面・中間から左・近くへ移動しながら／有聲音／やや小声）  
で、膝枕、して欲しいな～、ほひ、口口。

(恥ずかしそうに) ウチの膝、いつも通り、頭乗せなさい。

(茅田梨の膝に寝転がる音)

(左・近く／有聲音／小声)

ちよつとひ、あんまり動かないでよつ！  
くすぐったいじゃないつ。

そう、それでいいわ。

あと、これから耳かきするんだから、ジッとしててもうわないと困るわ。  
じゃないと旦那様のお耳を、傷付けちゃうかもしれないじゃない？  
は？

優しい？

ウチが？

ばっかじやないのつ？

あ、しまつ…。

旦那様に対して、失礼な事言つちやつた…。

えつと、その…、すみません…。

だつてさ…、もし怪我なんかしたら、痛いだらつ…。

そんな事、旦那様に起つて欲しくないつていうか…。

「やつぱ優しい」？

ちよ、今のなしつ！

そう、なしつ！

ウチはなにも言つてない。

いい？

(呟く様に) なに言つてんだろうウチ…、本音漏れすぎ…。

(咳払い) う、うんつ…。

じゃあ、始めるわよ。

今日は、新しい耳かき棒を買ったから、コレを使っていくわ。

先端がいつもより小さい。

だから耳の奥もよく見える、優れモノよ♪

あ、でも、あんまり奥はやうないから、安心して？  
セツヤモ言つたけど、傷付けちゃつたらいけないから。  
んん…。

もう、旦那様、からかわないでっ！

「ミめん」って、やつぱりからかってるんじゃない…。

旦那様のいじわる…。

(恥ずかしそうに) うう…。

まあいいわ。

ほら、話してばかりじゃ始めるれないから、やつていくわよ。

(左・近く／有聲音／かなり小声)

初めて使う耳かき棒だから…、慎重に…。

(浅い呼吸の演技／若干台詞混じり)

す～、ふ～、す～、ふ～、す～、ふ～、す～、ふ～。  
す～、ふ～、す～、ふ～、ん～…、うん…。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

す～、ふ～、す～、ふ～、す～、ふ～、す～、ふ～。  
す～、ふ～、す～、ふ～、え～つと…、よし…。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

(台詞の合間に耳かき音)

旦那様、どう？

痛かつたら、直ぐに言つてよね？

そう、気持ちいいのならよかつたわ♪  
え？

「あり…、がとう」？

鳴になことよ。

ウチはメイド。

旦那様に雇われてゐる。

だから耳かきへらい普通の事よ?

「違う」?

なにが?

「」の耳かき棒?

どういう意味よ?

うん…。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

うん…。

は?

ウチが意氣込んでた?

紫織さん、それ、喋つたりやつたの?~

も~、余計な事話さんじでつて、こつも川口へりのこ~。

(ため息) はあ…。

まあいいわ…。

そうよ。

ウチはどうすれば旦那様が喜んでくれるだらうつて、こつも川口へり。

ただお耳を綺麗にするだけじやない。

もう一つ…、ううん、もっと上の癒しを川口指してね。

へ?

「真面目」?

もうひ、またウチをからかつてつー

本当に旦那様つていじわぬ…。

んん…。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

まあでも、ウチは旦那様の事、嫌いじゃないわ。  
は？

好きとは言つてないわよつ！

嫌いじゃない、もう言つたのつ！

旦那様、ワザと言つしゆでしょ？

ぐぬぬ…、やつぱり…。

あ、いいの？

そんなにウチをからかうなら、耳かき、リードやぬぬナビ…。  
そんなの困るでしょ？

ほうね？

だったら、あんまりウチをからかわない事。

いい？

ねえ…、その顔はどう見ても分かつてない顔よ。  
なんでそこまで頑ななの？

ウチ…、だから？

えへつと…、意味が分からないんだけど…。  
つまり、どうじつ事よ？

うん…。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

うん…。

は？

「好き」？

ちょ、バツカじやないのつ？  
なに言つて…。

あ…、しまつ…、また…。

あ～、その顔つ！

そう、いつもからかう時にすんな顔だわつー  
だ・ん・な・さ・ま？

いじわるも度が過ぎると、ウチにも我慢の限界つてものがあるわ。  
それが今、限界を超えたの。

へ？

「超えたらどうなるか」？

あ～…、え～と…。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

もう金輪際 (じごんりん)、旦那様に耳かきしてあげ…、ない…？

あ、嘘。

今のはしつ！

それはウチが困る…。

耳かき出来ないのは…、困る…。

え～と…、それ以外だと…、え～と…。

うう…。

特にないわ…。

うるさいわねつー

そもそもよ？

旦那様がそんなにいじわるるのがいけないの、分かってる？

あ～あ、やっぱり無自覚…。

いらっしゃ主従の関係だからって、ウチやほかのメイドをからかって、樂しい?

「うん」つて…。

(ため息) はあ…。

(呆れた様に) もういいわ…。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

旦那様はそういう人って分かつてるか?」  
「うう。

メイドたちは分かつた上で、旦那様にお仕えしている。  
これくらいで、最初の三か月で、あじい方に慣れるわ。  
旦那様も、もう何度も耳かきされているから、分かるでしょう。  
そう、それからアレ、してこくわよ♪

ふふつ♪

嬉しそうな顔してるわね♪

お待たせ、ふわふわ梵天よ♪

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

(耳かき棒を持ち替える音／耳かき棒をコンコンと叩く音)  
行くわよ～♪

(楽しそうに)

ふわふわ～、ふわ、ふわ、ふわ、ふわ♪

ふ～わ、ふ～わ、ふ～わ、ふ～わ、ふわふわ～♪

(息のみの耳ふー) ふう～。

あはつ♪

とろけた顔しちゃって、どんだけこれが好きなのよ♪  
ま、人が幸せそうな顔してんのを見ると、ウチは好き。  
だからもつとしてあげる♪

ふわ～、ふわ～、ふわ～、ふわ～、ふわふわ～♪

ふわふわ、ふわふわ、ふわふわ、ふわふわ♪

(息のみの耳ふー) ふつふ～、ふつふ～。

ふふつ♪

口、空いてるわよ♪

だらしないんだがう♪

もう少しだけ、ふわふわ行くよ♪

ふ~わ、ふ~わ、ふ~わ、ふ~わ、ふわわ~♪

ふわつふわつ、ふわつふわつ、ふわつふわつ、ふわつふわつ、ふわつふわつ、

(息のみの耳ふー) ふ~~つ。

(ーー)まで

はい、こっちはおしまー。

旦那様、ゴロゴロして反対側向いて頂戴。

(右・近く／有聲音／かなり小声)

は~い、次はこっちね。

よおし、綺麗にしていくわよ。

つて、あの~、なんでやる前からそんな幸せそうなのよ。  
あ~、もしかして、ウチの太ももで満足してない?

(会話の合間に耳かき音)

う~わ、図星なんだ…。

もう正面に肯定されるとは思わなかつた…。

そんなんにウチの太ももが好きなの?

(驚いた様に) 即答つ?

そ、そなんだ…、へえ…、好き…、なんだ…。

まあ、いいんじゃない?

そんなんに好かれて言つてくれてるのに?

仕えてる身としては?

旦那様の意向に背く訳にはいかないじゃない?  
そうよ。

ーの事は許してあげる。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

あ、だからって、ほかのメイドにまで同じ様に接するのはオススメしないわ。

そう、ウチだから許されてるって忘れないで。

(呆れた様に) なぐに鼻の下伸ばしてるので。

(冷たい感じで)

旦那様が、膝枕がいいつて言つからしてあげてるだけ。

それ以上の感情はないから、勘違いしないで頂戴?

そんな風に唇尖らせて、拗ねたフリしてもダメよ。

旦那様に仕えて、色々と思い知らされたの。

これくらいお見通しよ。

ほーら、いつまでそつやつて唇尖らせてるつもり?  
耳かきに集中するわよ。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

(ー)(ー)まで

すく、ふく、すく、ふく、すく、ふく、すく、ふく。

すく、ふく、すく、ふく、すく、ふく、うん…、うん。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

すく、ふく、すく、ふく、すく、ふく、すく、ふく。

すく、ふく、すく、ふく、よーし、取れた…。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

すく、ふく、すく、んん…、すく、ふく、すく、ふく。

すく、ふく、すく、ふく、もう少しひ…、よーし…。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

んく、お、発見…。

すく、ふく、すく、ふく、すく、ふく、すく、ふく。

すく、ふく、すく、ふく、これで…、最後…、よーし。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

よし、大きな汚れは取れたわ。

じゃあ最後に、ふわふわ梵天ね♪

(耳かき棒を持ち替える音／耳かき棒を口の口と呑く音)

いぐわよ♪

ふわふわ～、ふわふわ～、ふ～わ、ふ～わ、ふわふわ～♪  
ふわ～ふわ～、ふわ～ふわ～、ふわ～ふわ～、ふわ～ふわ～♪

(息だけの耳ふー) ふ～、ふ～。

ふふつ♪

(口調の合間に梵天の音)

相変わらず、いい顔するんだが♪♪  
これ、すぐつたいて言つ人も居るけど、旦那様はいつじゃない様ね♪  
耳かきの先じや取れない様な細かい汚れも、これで一網打尽よ♪  
え?

ああ、確かに。

本当にそんな小さな汚れが取れているかは、よく分からない…。  
お耳の穴って暗くて良く見えないものね。

(息だけの耳ふー) ふ～～つふ～。

まあでも、気持ちいい…、それだけでもやつの価値はあるでしょ?~  
と囁うか、気持ちいいからやって欲しいと思つてね。

違う?

あら、ビックリしたような顔をして。  
どうやら正解みたいね♪

(息だけの耳ふー) ふつふつふ～。

別に不思議じゃないわよ。

言つたでしょ?~

旦那様の事はお見通しだつて。

そういう事よ♪

(息だけの耳ふー) ふ～、ふ～。

うん、綺麗になつたわ♪

これで耳かきはおしまい。

どう?

痒い所とか、ないかしら?

そう、よかつた。

あ、こり。

ま～た太ももにすりすりして…。

旦那様、このあとを担当する春(はる)と咲(さき)が待つてこね。いつまでもやつしていたら、続きが出来ないわよ~。ねえ、聞いてる?

(ため息) はあ…。

(呆れた様に) もう、仕方ないわね…。

今日は「」まで。

またいつでも膝枕、してあげるから。  
ふふつ♪

嬉しそうな顔…。

は?

可愛い…?

そ、そつ…?

えへへ…、つて、しまつ。

(震え声で) バ、バツカじやないのつ?

べ、別に嬉しくなんかないし?

喜んでなんかないし?

あ、ま～たその顔…。

からかってる時の顔…、ぐぬぬ…、もう…知らない…。

ほひ、起き上がりなさい？

(身を起<sup>レ</sup>す音)

(位置正面・中間／有聲音／小声)

ウチはこれで下がるから。

次は春と咲が担当する、色んなASMRY。

楽しみにしてよね♪

じゃ、旦那様、またね♪

(茅田梨が立ち去る音)

メイド尽くし 春・咲

クアトロ

4：色々なASMRのお時間です（施術室／正午過ぎ）  
(ノックの音)

◆春◆

(位置右・遠く／有聲音／ドア越し)

旦那様、春と咲です。

入つてもよろしいでしょうか。

はい、失礼いたいします。

(ドアの開閉音)

(春と咲の足音)

(位置左・中間／有聲音／やや小声)

旦那様、昼食はお済みの様ですね。  
では食器をお下げいたします。

咲、お願い。

◆咲◆

(位置右・中間／有聲音／やや小声)

はい、春姉さん。

旦那様、食器をお下げいたしますので、前を失礼いたします。

(食器を片付けて下げる音)

◆春◆

(位置左・中間／有聲音／やや小声)

昼食はお口に合いましたでしょうか。

左様でござりますか。

ご満足いただけた様でなによりです。

本日！」のあとで、色々なASMRのお時間「ジャヤ」こもす。  
春と…。

◆咲◆

(位置右・中間／有聲音／やや小声)

咲が、旦那様にきつと喜んでいただけの音を、集めて参りました。  
早速始めますが、よろしいでしょうか?  
はい、かしこまりました。

では、旦那様。

楽な姿勢で、全身の力を抜いて下さいます。

◆春◆

(位置左・近く／有聲音／小声)

先ず、呼吸を整え、リラックスするため、深呼吸をいたしましょう。

吸つて、吐いて、吸つて、吐いて。

吸つて、吐いて、吸つて、吐いて。

◆咲◆

(位置右・近く／有聲音／小声)

吸つて、吐いて、吸つて、吐いて。

吸つて、吐いて、吸つて、吐いて。

はい、それでは、色んな ASMR を始めて参りましょう。

◆春◆

(位置左・近く／有聲音／小声)

一つ目は旦那様も大好きな、「コルクタッピング」です。

今日は厚めのコルクコースターをご用意いたしました。

コルクの表面を、爪で軽く叩く様にして…。

(コルクタッピングの音)

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

いつもよりも、重厚な音の様に感じられませんか？  
そしてそれが心地いい…、いかがでしょう？  
うん、お気に召された様でなによりです。

春姉さん。

春姉さんが選んだコルクコースターの音、旦那様は喜んでおられますよ。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

咲。

そういう事は恥ずかしいから言わなくていいのよ。  
分かったかしう？

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

すみません、春姉さん。

以後、気付けます。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

旦那様、今の咲の発言は、聞かなかつた事にして下せませ。  
え？

あり…、がどう？

ええと、その…。

春は、当然の事をしたまでです…。

ですが、旦那様にそつ仰つて頂けて、光榮でござります。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

よかつたですね、春姉さん。

旦那様に感謝されましたよ。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

だから咲。

分かっているから、そういう事は言わなくていいの。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

すみません、つい。

でも春姉さん、実は嬉しいんでしちゃう?  
顔、緩んりますよ。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

うう…。

咲、あとで部屋に来なさい。  
話があるわ。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

(落ち込んだ様に) はい、春姉さん…。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

おや?

旦那様。

いかがなさいましたか？

はあ…、「仲がいい」…、で、どうですか…。

うーん…、これは仲がいこと聞えるのでしょうか…。

え？

「双子、うしくて、うー」…、どうぞこまますか…。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

今度は旦那様に褒められました。

よかつたですね、春姉さん。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

咲…、いい加減にしなさい。

ワザとしゃべりたいところだしそう。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

さあ、なんの事でしょう。

分かりませんね。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

嘘が下手ね。

咲は嘘をつく時、いつも唇を舐めるの。

今もそうよ。

あとで覚えていなさい。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

春姉さん、こわ～い。

旦那様～、助けて下さ～い。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

なつ～、ずるいわよ。

というか、旦那様を巻き込まないで。

旦那様もなにか仰って下さい。

咲の悪ふざけは、少々失礼かと。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

旦那様はお優しい方ですから、きっとお叱りになられませんよ。

それよりも今はコルクタッピングの時間。

余り喋っていては、音に集中できないですよ。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

うう～、元はと聞えれば、咲が原因よ。

それなのに、ずるいわ。

すみません、旦那様。

せっかくのスペシャルリラクゼーションティーなのに、騒がしくて。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

ほら、春姉さん。

旦那様は喜んでいらっしゃいます。

喜ぶ、笑顔になる事もまた、リラックスされている証拠。

◆春◆

(位置左・近く／有聲音／かなり小声)

うう…、確かにそうだけど…。

まあいいわ。

咲、これが終わったら覚悟していなさい。

◆咲◆

(位置右・近く／有聲音／かなり小声)

一体なにをされてしまうのかしう。  
こわい。

◆春◆

(位置左・近く／有聲音／かなり小声)

もう、知らない…。

(弦く様に) はあ…、今は咲に構っている場合じゃないわ…。  
さて、旦那様。

続いてはコルクコースターのスクラッチングで“ざ”いります。  
ゴリゴリという音が、きっと耳に心地いい事でしょう。

◆咲◆

(位置右・近く／有聲音／かなり小声)

咲はこの音、大好きで“ざ”います。

今日はいつもより厚めのコルクコースターですので、初めて聞く音。  
旦那様、いかがですか？

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

それはよかつたです。

では旦那様。

少し変わった試みをいたしましょう。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

目を閉じて、リラックス…。

スクワット音が…、左右を行ったり来たりしますよ…。

いかがですか？

あ、目を開けてはいけません。

ええ、そのままです。

これは咲と春姉さんが、新しく身に付けた奥の手で「」あります。  
ですので、どうやっているかは、旦那様にもナイショ、です♪

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

音が移動して、頭の中を通っている様に聞こえませんか？

どういう仕組みが気になります？

ふふっ♪

ナイショ、ですね♪

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

どうやら、かなりお気に召されたご様子。

これを最初に提案したのは、咲で「」います。

春姉さんと双子なうではの、なにかが出来ないかと、試行錯誤いたしました。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

咲と呼吸を合わせ、音に強弱を付ける事で、この不思議な音が完成します。これを習得するまで、何度も何度も咲と練習いたしました。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

春姉さんつたら、凄く熱心に練習していたんですよ。  
昨晚も夜遅くまでずっと。

よかつたですね、春姉さん。

旦那様はまたお喜びですよ。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

咲、そういう事は言わなくていいって、何度も言わせないで。

春は咲よりもその…、少しだけ不器用ですので、それで多く練習を…。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

少しだけ…?

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

聞こえてるわよ、咲。

今日、このあとの反省会は長くなりそうね。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

うつ…、もう既に反省しています…。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

まつたくもう…。

恥ずかしいから、旦那様の前で余計な事を言わないので欲しいわ…。  
あ、失礼いたしました、旦那様。

またお見苦しい所を…。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

旦那様は気にしているつしゃらない様ですよ。  
よかつたですね、春姉さん。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

咲、ワザと言っているでしょ?

旦那様の前だからって、調子に乗っていない?  
いい加減にしないと怒るわよ?

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

う…。

分かりました。

しばらく静かにしています。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

分かればいいのよ。

旦那様、騒がしくて申し訳ございません。

しばらべスクラッチ音に集中なさって下さい。

(しばらべスクラッチ音のみ)

◆春◆

(位置左・近く／有聲音／かなり小声)

さて、旦那様。

そろそろ次の音へと参りましょう。

◆咲◆

(位置右・近く／有聲音／かなり小声)

最後は、キネティックサンドをザクザクして参ります。

本来はお部屋の中でも汚さず遊べる土、として売っているモノ。握ると固まり、それでいて手に付着しない、子供向けのがん具でござります。

◆春◆

(位置左・近く／有聲音／かなり小声)

では容器に入れたキネティックサンドにフォークを刺して…。

◆咲◆

(位置右・近く／有聲音／かなり小声)

かき氷を削つている様な、ザクザクという音。耳かきをされている様な、チリチリという音。

複雑に混ざりあって聴こえ、ゾクゾクいたしませんか？

◆春◆

(位置左・近く／有聲音／かなり小声)

どうやうとも心地いいと感じられている様子。

だつて旦那様、背筋が反っているんですもの。

そんなにゾクゾクいたしますか？

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

これは新しい発見ですね、春姉さん。

普段とは違う、今まで使った事がない音…。

そういうモノを探していました。

どうやらこのキネティックサンドは大当たりの様ですね。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

そうね、咲。

これは大当たりだわ。

それでは旦那様。

またしばらく音だけをお楽しみ下さい。

(しぶしぶキネティックサンドの音)

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

はい、旦那様。

いろんなASMRは以上でいります。

あら?

物足りないといったお顔をされていますね。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

ですが、この後の陽縁(ひより)が控えております。

それに、この後は旦那様もお気に入り、お耳の炭酸マッサージで「ジヤ」ります。

◆咲◆

(位置右・近く／有聲音／かなり小声)

陽縁は抜けている所が「ジヤ」いますが、この日のための準備は万全の様でした。  
ええ。

「旦那様を癒すんだー」つと、意気込んでおりました。

◆春◆

(位置左・近く／有聲音／かなり小声)

では旦那様。

これにて春と。

◆咲◆

(位置右・近く／有聲音／かなり小声)

咲は失礼いたします。

ええ、次回も変わったASMR、「じ」用意して参ります。  
なにを使うかは、ナイショ、で「ジヤ」します♪

◆春◆

(位置左・近く／有聲音／かなり小声)

なにを使うかは、ナイショ、で「ジヤ」します♪

(春と咲が退室する音)

メイド尽  
じへくし

陽縁

クアトロ

## 5：炭酸マッサージだよ～（施術室／午後）

（ノックの音）

（位置右・遠く／有声音／ドア越しに呼びかける）

旦那ちゃん、陽縁だよ。

入るね～。

は～い♪

（ドアの開閉音）

（位置右・遠くから正面・中間へ移動しながら／有声音／やや小声）

やあ～っと陽縁の番、きた～♪

（位置右・遠くから正面・中間へ移動しながら／有声音／やや小声）

早く回って」ないかな～って、待つてたんだあ～。

（位置正面・中間／有声音／小声）

えへへ～♪

旦那ちゃんも、陽縁の事、待つてたよね？

（イケボで）「待つてたよ」

だつて♪

にえへ～照れるう～♪

（肩をバンバン叩かれる音）

（位置正面・中間から左・近くへゆっくり移動しながら／有声音／小声）

で、早速なんだけど、陽縁は～炭酸マッサージの係だよ～♪

（位置左・近く／有声音／小声）

シユワシユワパチパチの炭酸泡で～お耳をマッサージするんだあ♪

旦那ちゃんも、炭酸マッサージ、楽しみだったよね？

（イケボで）「勿論

だつて♪

にえへ～嬉しいな～♪

(肩をバンバン叩かれる音)

陽縁もね～いっぽい準備してたんだあ～。

だつて旦那ちゃんを、癒してあげたいんだも～ん♪

(位置左・近くから正面・中間に移動しながら／有声音／小声)

つて事で～今日は～これを使うよつ。

(正面・近く／有声音／小声)

ジャ～～ンヒー！

(思い出せないという感じで) あ～あれ、え～と…なんだつたつけ?

(商品の説明欄を読みながら／呟く様に)

きめ…細やかな泡が…お肌に…密着…ふむふむ…。  
無添加…アルコール…不使用…ほつほつ…。  
なるほどねえ～。

(「」まで)

(正面・中間／有声音／小声)

ジャ～～ンヒー！

今日は～」の新しい炭酸泡のやつでマッサージするよ♪

「これはね、きめ細やかな泡が…へ?

聞こえてた…?

そつか…聞こえてたんだ…。

陽縁は読んでもよく分かんかったけど…ここやつだよ♪  
多分?..

やつと?..

お～うぐ?..

まあなんでもここじやない。

簡単に言つと、凄い新商品つて事♪

(自慢氣に) ふうんつ♪

え？

これを選んだ理由？

あ～、えつとね、店員さんに聞いたの。

「炭酸泡が出てるやつで、凄いや～つありますか」って。

「したらね、親切なお姉さんが、これを勧めてくれたんだあ～。

「お肌の弱い方でも使えますよ」って。

旦那ちゃんの肌は荒れやすいから、新商品になると、もう一重敷でしょ？  
そ。

だからもうまでもちやんと考えて、買ったんだあ～

(自慢気に) エツヘン。

や、話しあれくらうにして、マッサージ、やつてこくみお～  
先ずは炭酸泡を手に取つて…。

(炭酸泡が出る声)

は～い、じゃあ片方ずつやつていいくからね～。

(位置正面・中間から右・近くへ移動しながら／有声音／小声)

シユワシユワ～～。

(位置右・近く／有声音／小声)

(ゆづくり)

シユワ～～シユワ～～、シユワ～～シユワ～～。

シユワ～～シユワ～～、シユワ～～シユワ～～。

パチ～～パチ～～、パチ～～パチ～～。

パチ～～パチ～～、パチ～～パチ～～。

(一回まで)

どう？

お肌、ヒリヒリしたりしてない？

(満足げに) うそうそ♪

それなら安心だね。

(位置右・近くから左・近くへ移動しながら／有聲音／小声)

反対のお耳もしょく～♪

(炭酸泡が出る音)

(位置左・近く／有聲音／小声)

「こつちもシユワシユワ～～。

(ゆづくり)

シユワ～～シユワ～～、シユワ～～シユワ～～。  
シユワ～～シユワ～～、シユワ～～シユワ～～。  
パチ～～パチ～～、パチ～～パチ～～。  
パチ～～パチ～～、パチ～～パチ～～。

(こじまで)

は～い、気持ちいい～♪

どうどう、旦那ちゃん。

新商品の凄さ、感じぬ?

(相槌) うん…うんうん…。

(イケボで) 「こつもよりマイルド」

だつて♪

ひとつ前のように、泡が細かいから、だね。  
成程、成程お。

(位置左・近くから右・近くへ移動しながら／有聲音／小声)

じゃあ凄い新商品、もつと試してこ～♪

(炭酸泡が出る音)

(位置右・近く／有聲音／小声)

もつかいこつちを、シユワシユワ～～。

(ゆづくり)

シユワ～～シユワ～～、シユワ～～シユワ～～。

シユワ～～シユワ～～、シユワ～～シユワ～～。

パチ～～パチ～～、パチ～～パチ～～。

パチ～～パチ～～、パチ～～パチ～～。

(一〇)まで

(炭酸泡が出る音)

(位置左・近く／有声音／小声)

反対も忘れず、シユワシユワ～～。

(ゆっくり)

シユワ～～シユワ～～、シユワ～～シユワ～～。

シユワ～～シユワ～～、シユワ～～シユワ～～。

パチ～～パチ～～、パチ～～パチ～～。

パチ～～パチ～～、パチ～～パチ～～。

(一〇)まで

旦那ちゃん、いい顔してね♪

うん、幸せそうな顔♪

といふで旦那ちゃん。

今片方ずつやつてゐたゞけ、両耳同時にやつたら、どうなつやつと毬つか。

ふふひ～

目がキラツとしたひ～

やつて欲しいんでしょ？

(イケボで) 「頼む」

だつてつ。

冷静に見えるけど、内心やつて欲しくて仕方ないクセにい。

分かるよお。

陽緑はぜ～んぶ、お見通しなのひ～

(位置左・近くから正面・中間へゅっくり移動しながら／有声音／小声)

じゃあ両方のお耳、マッサージしてみよっね♪

(炭酸泡が出る音)

「これでも～っと陽縁に～、メロメロになっちゃうかも？」  
ん～それっ。

(じぱりくマッサージ音のみ)

(位置右・近く／有声音／小声)

～じうじう～

陽縁にメロメロになつた？

陽縁はね～旦那ちゃんの事、好きだよ♪  
いっぱい褒めてくれるし～、優しいし～、お皿割つても怒りないしつ～  
え？

あれから？

(位置右・近くから左・近くへゅっくり移動しながら／有声音／小声)

あ～え～つと…五枚割つちやつた～みたいな？

(位置左・近／有声音／小声)

へ？

正直でいい？

にえへへ～照れますなあ～♪

でもね、聞いて？

お皿がね？

勝手にね？

手から滑り落ちるのつ。

つる～んつてつー！

怖くない？

怖いよね？

でしょ～？

(位置左・近くから右・近くへゆっくり移動しながら／有声音／小声)  
でね、その事をメイド長の董（すみれ）さんに、報告したの。

(位置右・近く／有声音／小声)

そしたら、なんて言われたと思う?

(おしとやかに) 「齧った七枚分、注文しといて頂戴」。

だつて。

だから陽縁、早速注文しておいたんだ♪

(自慢気に) えっへんっ。

へ?

「ヤツキと枚数が違う」?

(慌てた様に) しまつ…。

(誤魔化す様に)

な、なにが?

え、待つて。

ホラー?

怖い怖い怖い…。

(一〇まで)

(落ち込んだ様子で)

(位置右・近くから正面・中間へ移動しながら／有声音／小声)

あ～、え～っと…。

(位置正面・中間／有声音／小声)

うん…嘘ついた…。

本当は、七枚割つた…。

今度こそ本当…。

七枚だから、ラッキーセブン…なんちやつて…。

(一ノ瀬モモ)

へ？

「怪我がなくてよかった」…？

旦那ちゃん…優し過ぎて惚れてしまつやん…。

まあ惚れはしないんだけどさ。

当たり前でしょ～？

陽縁は雇われてる身。

それくらじ自覚してます～。

え、てか旦那ちゃん、もしかして期待しちゃった？

わあ～マジい～？

あり得ない。

ふ～くすくすつ。

へ？

お皿の代金…？

あつ…。

え～と…その…」あん…。

反省してね…。

お皿ももつ一度と酔ひなご。

多分？

あつと…。

まあ見ててよ。

華麗なるお皿わざをナフ。

シユツ、シユツ、シユツてね♪

(自慢気に) ふうん。

あ、旦那ちゃんのその皿。

信用しない旦だ。

いいの?

信用されてない陽縁、仕事放棄しちゃうんだ、いいの?

(イケボで) 「構わん」

だつて、あはつ♪

…あれ?

マジで?

えへつと……マジ?

あはは～も～やだな～も～ね～♪

旦那ちやんは、す～ぐ真に受けんんだから～も～。

(位置正面・中間から左・近くへ移動しながら／有聲音／小声)  
で～そのお～、お給料はどうなるのかな～って気にならな～。

(位置左・近く／有聲音／小声)

陽縁、今月の出費が結構あつて～、厳しい～みたいな?  
差し引かれちやつと～、困る～的な?  
優しい旦那ちやんなり～?

(位置左・近くから右・近くへ移動しながら／有聲音／小声)  
見逃して～れ～…ねつ。

(位置右・近く／有聲音／小声)  
(キヨアソとした感じで) …へ?

マジ?..

えへつと、いいの?

結構いいお値段のお旦だつたよ…。

そつか…許して～れるんだ…。

旦那ちやん優しい…しゅやん

にえへへ～、ホントの事、聞ひかけやつた～♪

ねうだよ～。

陽縁は～田那ちゃんの事～しゅきつ♪

(位置右・近くから正面・中間へ移動しながら／有声音／小声)

理想の男性ナンバー「ワン」、なんだよ？

(急に真剣に／キャラが変わった様にシリアスに)

冗談とかじやなくて、本氣で…。

自分で言つのもアレだけど、陽縁は…ジジドショ…。

そんな陽縁を雇つてくれて…ドジつても許してくれぬ…。

普通なら…とつぐにクビになつても…不思議ぢやない…。

なのに田那ちゃんは…ずっと優しいまま…。

だから陽縁…正直になる…。

今…その決心が付いたよ…。

理想の男性ナンバー「ワン」の田那ちゃん…。

実はね…。

(「こまで

(元のアホっ子に戻る)

(位置左・近く／有声音／小声)

寝室の花瓶、割つちやつた♪

「めんね～♪

いやあ、お掃除してたらカ～お尻ど～りつっこじかやつて～。

そんで、しまつた～って思つた時には、もうアウトだつたんだよね…。

次の瞬間には、パリーンつてね♪

派手に割れて、床も水浸しつ。

おかげで掃除が増えちゃつてセ～♪

あれ…もしかして田那ちゃん…おひ～？

おひ～ぴつぴなの？

やだなあ～そんな怖い顔しないでよ～。

(位置左・近くから右・近くへ移動しながら／有聲音／小声)

いつもみたいに許して貰おうでしょ～?

あ、駄目…。

流石に許されない…。

ですよね～…。

え～っと、その…。

あの花瓶って高いの?

へえ…高いんだ…。

(位置右・近くから正面・中間へ移動しながら／有聲音／小声)  
ん～ちなみに、おいくつ万円なんぞもしそう…?

(値段を聞く)

(位置正面・中間／有聲音／小声)

たつ～…つ!

ほお～ほおほお、そう来ますか、ほおほお…。

(心底落ち込んだという感じで) トホホ～。

あの～、分割でもいい?

何回払いになるか分からぬいけど、一度には無理…。  
少しづつ返すから…何卒…。

へ?

冗談?

なあ～んだ～、田那ちゃんつたり、演技つま～♪

(肩をバンバン叩かれる音)

まつたくも～焦つちゃつた～。

え?

それ以外?

(とぼけた感じで) んへっと、なんの事だろ?...。

(鳴らない口笛) スヒュ~、スヒュ~。

はい、ちよつと時間押してねから、今日は「」んなもんでつー

いいの、終わるの。

ほら、メイドたるもの、時間管理つて大事じゃない?そ。

決められた時間までに、決められた勤めをこなさないとつ。でしょ?

うんうん。

つて事で、次はヘアカット。

杏子(あんず) ちやんの番だね♪

陽縁は杏子ちゃんを呼んでくれながら、旦那ちゃんは浴室へ移動してて?でし、髪を整えて、益々理想の男性になつてよ♪んじやあ早速、陽縁は失礼してつと…。

(陽縁の足音)

(ドアの開閉音)

(廊下で花瓶が割れる音)

(位置右・遠く／有聲音／(ドア越し))

やつば…。

□ クラス

ナウト ベルベット メイド

6..ヘアカットすんよ～（広い浴室／夕方）

（ノックの音）

（位置右・遠く／有声音／ドア越し）

パパ～、杏子（あんず）～。

入るよ～。

（ドアの開閉音）

（位置右・遠く／有声音）

いえ～い、パパ～、待つた待つた？

にひひふ

やっぱ待つたよね♪

つて事で～や～つと杏子の番だあ♪

（杏子の足音）

（位置左・近く／有声音／小声）

杏子う、楽しみで楽しみで、待ちくたびれちゃつた～。  
だから～早速ヘアカットすんよ～♪

つてワケで～、日頃から美容学校で学んでる事を、披露しかけやつと～

（位置右・近く／有声音／小声）

（霧吹き）で髪を濡らす音

つてかさあ、パパの髪、伸び放題じや～ん。

前回のヘアカットから美容院、行つてないん?

う～わ、やつぱり…。

まつたぐも‘つ…。

パパは杏子が居ないと、直ぐ放つたらかしにするんだから…。  
え?

その呼び方?

（不思議なうに）「パパ」じゃ駄目なん?

(不満そうに)ええ～、いいじゃん別に～。

「旦那様」って呼ぶの、なんだか抵抗あるんだよね～。  
だからさ、許してくんない?

にひひつ♪

(位置左・近く／有声音／小声)

ありがと♪

パパはいつも優しいから、好や♪

(位置左・近くから右・近くへ移動しながら／有声音／小声)

あ～でも～。

(位置右・近く／有声音／小声)

杏子だけ躊躇されるのは、ちょっと困るかも。

ほかのメイドが誤解つか、嫉妬しちゃうから、マズいんだよね。

へ?

(位置右・近くから左・近くへ移動しながら／有声音／小声)

杏子の…思…過…」し～

(位置左・近く／有声音／小声)

…マ?

え、じゃあ、パパが優しいのは、テフオなん…?  
マジかあ～…。

(不貞腐れる様に)

じゃあセッセ、「好き」って言ったの、ナシで。  
そう、撤回する…。

本当はどう思つてるか…?

(ここまで)

(考え込む様に)

あ～、んん～～え～つとね…。

嫌い…つてワケじゃないし~、ん~。

(一〇)まで

あ~、パパのその顔、からかってる顔じゃんつ!

も~イジワルつ!

そうやってほかのメイドも、からかってるんでしょ…。  
うん、つて…はあ…。

パパはもつと、自覚したほうがいいよ?  
なにがつて…。

ああ、もう知りない…。

ほ~んと、鈍感なんだか~…。

つて、話してぱっかりしてたらダメじやんつ!  
ヘアカット、さっさと始めないと。

まつたぐも~つ…。

ほ~ほ~、危ないから、動かないでね?

(位置左・近くから正面・中間へ移動しながら／有聲音／小声)

先ずは側面の髪から…。

(しばら~ストロークの長いヘアカット音)

(位置正面・中間／有聲音／小声)

ふう…相変わらずパパの髪の毛は硬いね~。  
うん。

美容学校で何人かの髪を切らせてもらつたけどさ、パパの髪は特に。  
でも任せて♪

「のハサミ、ただのハサミじゃないんだあ~

これは、一本一本手作りされてて、伝統ある職人のシロモノなんだよねえ。  
値段?

ああ~高かつたよ。

でもパパがしっかりお給料をくれるから、なんとか分割で♪  
杏子にとって、今まで一番高い買い物だったから、一生大事にすね♪

長く使うからには、お手入れもしっかりしないとね♪

切れ味が悪くなつたう?

ふつふん♪

それにつしても心配なうよ~.

そのお店に持ち込めば、調整してくれるみたい♪  
ね?

一生使くんでしょ?

にひひ♪

「」として理美容の専門学生として成り立つのは、パパのおかげ♪  
メイドとしても雇つてもうれしくて、すうへ感謝してね♪  
そ。

今日「」の日、スペシャルリラクゼーションパートー。

「」これはパパにリフレッシュしてもうれしい日、つてだけじゃないんだ~。  
メイドたち…。

つまり、杏子たちの気持を、家主であるパパに伝える日でもある。  
メイドたちはみんな、「」の日のために意気込んでんだから♪

ぜ~つたい、パパを癒すんだ~つてね♪

普段は真面目で、お堅いメイド長の董（あみね）さんもね♪。

今日ばっかりは朝から浮かれちやつてや~。

そういう所を見ると、案外可愛になつて思つわや~♪

それに紫織（しおり）さんも~。

いつもは竹刀をブンブン振つて勇もじこむ、昨日せきのタマで悩んでた。  
うん。

「」ゴシゴシして、パパに嫌がられるくじやないかってね~。

だから杏子はね、こいつは呪つたんだ。

「パパは紫織さんを理解しないから、嫌がつたりしないよ」つて。  
やしたりいつもはクールな紫織さん、表情緩んでたよ♪  
普段見せない表情で、可愛かったなあ♪

可愛こと聞えれば、いつもツンツン茅由梨（ちゅり）ちゃんつ。

「この日のために、新しい耳かき棒を用意するんだ～って意氣込んでた♪

**(位置右・近く／有聲音／小声)**

今日、新しい使つたんでしょう?  
どうだつた?

**(位置正面・中間／有聲音／小声)**

そつかあ、気持ちよかつたんだ♪

数日前から通販サイトと睨めっこしててさ、話しかけても気付かないくらい。

うん、それくらい真剣に、耳かき棒を選んでたな。

ああ見えて眞面目だし、パパの事、好きなんだよね～♪

もういうギャップつて可愛じよね♪

双子でギャップがない春（はる）ひやんと咲（さく）ひやんは、どうへ.  
ふふふ、やつぱり可愛いよね♪

二人も、今日の日は特別つて呪つてた。

いつもあんなテンションだけど、内心浮かれてるんだよ?  
練習も欠かさないし、勉強も疎かにしない。

もうそつ、いい子たちだよね♪

それだけじゃない。

「いい音」について、あの一人ならではの詠みもしてる♪  
凄いよね～。

そういうえばやつせ、廊下が水浸しだったけど。

もしかして陽縁（ひより）、またやらかしたの?

はあ…しようがないなあ…。

普段からそつとかしいから、落着せなよって叫んでるのに…。

### (位置左・近く／有声音／小声)

パパもあんまり陽縁を甘やかしちゃ、駄目だかんね?

当たり前じゃん。

### (位置正面・中間／有声音／小声)

お屋敷の物をあんなに壊しちゃって、見てらんないもん…。  
「の先ずつとあんな調子じや、困ぬでしょ?」

わう。

優し過ぎるのも、いい事ばかりじゃないでワケ。  
だから、杏子のメイドだけどやなくて、パパからももういつひでやつてよ。  
もうわつ、心を鬼にしてや、ひやんと指導していくこと。  
よし、かなりいい感じにカットドセーラム。  
わふわふ微調整してこくね♪

### (短いストロークのヘアカット音)

(咳く様に) うへん…もつぶしーりせ短めで…。

あ、そうだ。

新しく入つて來た子。

わう、菊乃 (きのの) ちやん。

まだ慣れない事もあるだふつせび、どんな感じ?  
うん…うんうん…。

へえ～頑張つてんじやん♪

まあ真面目に見えて、そつかじこアホあるから、油断なつなこねどな～。

わうわつ、第一の陽縁つて雰囲気で、ヒヤヒヤしちゃう…。

でも誰もが通る道だから、今は見守つてあげよつかなつて。  
え?

先輩つぽい?

もお～。

つぽいじゃなくて、先輩なの～。

「」つしてお支給も、学業も、両立できるんだって示してんじゃ～ん。  
でしょ?.

菊乃ちゃんからもね?

「わあ、杏子先輩、凄いです～」って、「」の前言われたんだから♪  
え～、いいじゃん。

普段褒めてくれるの、パパ以外いないんだもん。  
まあそれだけでも杏子は、満足だけどねえ♪

にひひ♪

でも杏子にとつては、菊乃ちゃんが初めての後輩だからさ、嬉しいんだ～♪  
うん、任せよ～♪

「先輩」としてしつかり指導しかやうんだから♪  
よ～っし、ヘアカットはカンペキッ。

じゃあ次は、洗髪していくね～。

7：洗髪すんよ～（広い浴室／夕方）

（位置正面・中間／有声音／小声）

ほー、こいつのシャンプーとトリートメント♪

（ボトルが擦れる音）

でもナ、帽子がやんだから、一応特別でしょ？

にひひひ♪

ねうわ～、美容学校で学んだテクニックってのがあんだけんね～。  
よ～し、じゃあ先ずは、軽くシャワーで流して…。

（じぱり／シャワーの音）

はい、オッケー。

そしたらシャンプーね♪

（シャンプーを手に取る音）

（シャンプーを頭で泡立てる音）

うん、泡立つわせた♪

やつぱりも使ってんだけど、キシキシしないから安心だね～♪  
そ。

パパのために、色々調べて試して、選び抜いたのがコレなんだ～。  
香りもいっし、泡立ちもいいから、洗ってる杏子も幸せ気分♪  
モロモロ～わしゃわしゃ～モロモロ～わしゃわしゃ～つむね♪

（位置右・近く／有声音／小声）

あ、パパ。

痒い所はない？

あつたら重点的にやるから♪

そこが痒い？

うん、任せても♪

指の腹で…頭皮をマッサージ…するみたいに…。

(おつべりーズミカルに)

モコモコ～わしゃわしゃ～モコモコ～わしゃわしゃ～  
モコモコ～わしゃわしゃ～モコモコ～わしゃわしゃ～  
“ゴシゴシ～ゴシゴシ～ゴシゴシ～ゴシゴシ～  
ゴシゴシ～ゴシゴシ～ゴシゴシ～ゴシゴシ～

(「」まで)

(位置右・近く／有聲音／小声)

どう、杏子のテクニックは？

前回より気持ちいい？

マジハ～

ヤツタ～

にひひ～

(位置正面・中間／有聲音／小声)

杏子ね、どれくらいの強さでやつたらいいかって、毎回考えてるんだ～。  
その日の頭皮の状態にもよるんだけど、コツはかなり掘めてきた♪  
パパの場合は～～れぐらいがベストってね♪

だから気持ちいいんだよ♪

はい、ほか、痒い所は～～こませんか～？  
ない？

じゃあ全体的にまんべんなく、ゴシゴシしてこくね～

(しづくシャンパーで洗う音)

(位置正面・中間／有聲音／小声)

よおし、これくらいかな？

じゃあ、泡を流してからね～♪

(しづくシャンパーの音)

次は～～アーメント♪

「これもこいつものね♪

(トリー・メントを手に取る音)

(トリー・メントを髪全体に馴染ませる音)

(位置左・近く／有聲音／小声)

(かし)まつた感じで

ねえ…パパ…あのや…。

相談…あんだけど…。

今はヤ…メイドと美容学校…両立でヤヒンジヤん?

それは凄くありがたいなつて思つてゐ…。

でも今後…。

そう、将来の話…。

もし美容師になりたいたって言つたら…パパはズバツね。

「杏子の意思を尊重する」つか…。

杏子?

あ～えつと…。

まだ…決めてない…。

色々…思う所があつて…

もしもの話…。

もしパパが引き留めるなり…メイドとして…」のお屋敷に残る…。

んん…ん~。

んで…どう?

「残つて欲しい」「?

そつか…残つて欲しいんだ…。

(小さく呟く) よかつた…。

(位置正面・中間／有聲音／小声)

ああ、ううん、なんでもない…。

(「」まで)

(残つて欲しこと言われた事に浮かれた感じで)

さて、なんのトリーントメント、流そつか♪

(鼻歌) ハンカラーハカラーハ

え?

だつて嬉しいもん♪

パパが必要としてくれてる♪

杏子はそれだけで幸せ♪

(「」まで)

つて、あんまり話してると、身体、冷やしちゃうでしょ?  
だからまじ、シャワーで流すよ~♪

(しづくシャワーの音)

はあい、おしまい♪

ボサボサだった髪も、いい感じ♪

パパ、益々イケメンになっちゃったね♪

にひひ♪

さてと~。

次は綿棒耳かきで、菊乃(キノ)ちゃんの番だね~。

あ、もし髪を整えて欲しかつたら、声かけてよね?

うん、いつでもオツケ~♪

「のお屋敷の主(あるじ)なんだもん。  
ボサボサの頭じゃ締まらないでしょ?」

そういう事~。

じゃあ風邪引かない様に、髪はしっかり乾かして~  
あ、そうだ。

菊乃ちゃん、凄く緊張してたから、優しくしてあげてよな。

じゃあパパ、杏子は下がるね♪  
はい、どういたしまして♪

(杏子の足音)

(位置右・遠く／有声音／やや小声)  
パパ、いつもありがと♪  
にひひふ

メイド服  
菊乃

8..め、綿棒耳かきですッ（施術室／夕方）

（ノックの音）

（位置右・遠く／有聲音／ドア越し）

だ、旦那様。

菊乃です。

入つてもよろしいでしょうか？

は、はい…失礼いたします。

（ドアの開閉音）

（菊乃の足音）

（位置正面・中間／有聲音／やや小声）

はわわ…ど、どうしましよう…。

ついに私（わたし）の番が、回ってきてしまいました…。今回が初めてなので…もし失礼があつたらと思つと…。

あ、はい。

私の担当は、綿棒耳かきです。

洗髪のあとですから、お耳の中に、水分が残つていてはいけません。で、ですから綿棒で、綺麗にいたします。

あ、そうですね。

早速始めて参りましょう。

は、はい…膝枕、いたしますので、一いつかうの施術マットへ…。

（聴き手の足音）

（菊乃の膝に寝転がる音）

（位置左・近く／有聲音／かなり小声）

はわわ…旦那様が私のひ、膝に…。

誰かを膝枕する、というのは初めてですので、緊張いたします…。ああ…ええと…。

私のお膝…心地はいかがでしょう?

「凄く…いい」?

良かつた…。

安心いたしました。

で、では綿棒耳かき、始めて参ります。

(綿棒をケースから取り出す音)

綿棒をお耳へ入れますので、動かない様、お気を付け下さい。  
し、失礼いたします。

(綿棒耳かきの音)

いかが…でしようか?

痛くはありません?

はい、では続けて参ります。

(しづめい綿棒耳かき音のみ)

(浅い呼吸音／ゆつくり)

すゞふゞ、すゞふゞ、すゞふゞ、すゞふゞ。  
すゞふゞ、すゞふゞ、すゞふゞ、すゞふゞ。  
すゞふゞ、すゞふゞ、すゞふゞ、すゞふゞ。  
すゞふゞ、すゞふゞ、すゞふゞ、すゞふゞ。  
すゞふゞ、すゞふゞ、すゞふゞ、すゞふゞ。

(ここまで)

ん、いかがなさいましたか?

はい…。

上手?

え、ええと、綿棒耳かきが、でしようか?

はわ…どうしましよう…。

旦那様に褒められてしました…。

ああ……でも……凄く嬉しいです…。  
ええ。

初めて「」の旦を迎えるにあたり、先輩メイド方に、色々教わりましたので。  
旦那様がどのくらいの強さが好みか、ですか。  
お耳の中のどの箇所が弱い、ですか。

流石先輩方…。

よく心得ていらっしゃる…。

「うして旦那様に喜んでいただけたのは、先輩メイド方のおかげ…。  
「」のお屋敷での綿棒耳かきは、新人メイドとしての登竜門なんだとか。  
ですから旦那様に上手、と仰っていただけて、心が軽くなりました。  
え?

はあ……もう少し肩の力を抜く…ですか…。

んん…そっは仰いましても、私はまだ新人メイド。

スペシャルリラクゼーションティーも、初めてで『』ぞいます。

旦那様に失礼があつてはいけませんから、その…緊張の糸がほぐれなくて…。  
あ、でもでも…綿棒耳かきは、しっかりと務めさせていただきます。

シャワー後の濡れたお耳は、しつかり水分を取り除かないといけません。  
はい、お任せ下さい。

程よい緊張感で、進めて参ります…。

(浅い呼吸音／ゆつぐり)

す～ふ～、す～ふ～、す～ふ～、す～ふ～。  
す～ふ～、す～ふ～、す～ふ～、す～ふ～。  
す～ふ～、す～ふ～、す～ふ～、す～ふ～。  
す～ふ～、す～ふ～、す～ふ～、す～ふ～。  
す～ふ～、す～ふ～、す～ふ～、す～ふ～。

(「」まで)

ん~、よし。

「こちらのお耳は、綺麗に拭き取れました。

旦那様、次は反対側のお耳を綺麗にいたしますので、寝返りを。

#### (寝返りを打つ音)

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

はい、ではこちらのお耳も、しっかりと水分を拭き取りましょう♪

(綿棒耳かきの音)

いかがでしょう。

痛くはございませんか?

よかったです♪

旦那様の気持ちよさそうなお顔…、見ていて私も幸せになつて参りました。  
そのおかげでどうか。

少しづつですが、緊張もほぐれてきた様な…気がいたします。

あ、でもでも、油断は禁物でござります。

ええ、お耳を傷付けてしまつてはいけませんから…。  
手先の動きは慎重に…慎重に…。

#### (浅い呼吸音／ゆつくり)

す~ふ~、す~ふ~、す~ふ~、す~ふ~。  
す~ふ~、す~ふ~、す~ふ~、す~ふ~。  
す~ふ~、す~ふ~、す~ふ~、す~ふ~。  
す~ふ~、す~ふ~、す~ふ~、す~ふ~。  
す~ふ~、す~ふ~、す~ふ~、す~ふ~。

#### (口)まで)

そう言えば旦那様。

私を雇つて下さったのは大変感謝しているのですが…。

その…私なんかがお仕えして、ご迷惑ではないですか?

だつてその……私は、いわゆる「ノリコ障」と云つて……。

ええ、人前で直ぐに緊張してしまつて……。

それで緊張のあまり、失敗してしまつた事も……。

旦那様はお優しいので許して下さりますが、この先続けられるか不安です……。  
はあ……「そのままいい」……ですか……。

「個性」？

ええ……ええ……。

「メイド」と「違つて面白い」……成程……。

でしたうり旦那様にお伺いしたい事がござります。

私、夢があるんです。

それは……董（すみれ）さんの様な、素敵なメイドさんになる事……。  
凛としていて、所作に無駄のない、理想のお方……私の憧れです。  
私も董さんの様になれるでしょうか？

ええ……ええ……。

はあ……「私がいられればいい」……。

つまり、董さんの様にはなれない……という事でしょうか？

綺麗で、カツ「よくて、眩しくて、温かくて、まるで太陽の様なお方……。  
初めて董さんに会った私は、やはり緊張してしまつて……。

それで、あわあわしていたら、「落ち着いて」と肩を撫でて下さりました。  
優しくて、嬉しくて、胸が熱くなつて……。

「の方」……、理想の方だつて思つたんです。

(綿棒耳かき音止まる)

え？

恋？

ええと……私が……董さんに……？

旦那様、冗談はよして下さ……。

んん…でも…私が言われてみると…これは…恋…なのかも知れません…。  
**(独り言の様に)**そつか…恋してんだ…私…もつか…。

あつ、申し訳ございません。

手が止まつておりました。

**(綿棒耳かき音再開)**

旦那様は…メイドがメイドに恋をかけ…ところのは、どう思われますか?  
その親指を立てるハンドサインは…つまつたつ…ところ事でしょつか?  
はあ…やうなのですね…。

**(独り言の様に)**アリ…ですか…。

でもでも…私なんかに好かれても、やつと董さんは喜びません…。  
ですから」の気持ちは、私と旦那様だけの内に留めておきましょう。  
いえ、いいんです。

その方がイケナイ恋つて感じで、よべはありますか?

ええ、一人だけの秘密、お約束です♪

さて、」いつも水分は綺麗に拭えました。

はい、おしゃれにいたしました♪

お疲れ様で♪

」のあとは、食堂に夕飯を♪用意しておつまむ。

施術着からお着替えになつてお越しください。

お夕飯後は、董さんによる寝かし付けが♪

あ、えと…旦那様。

董さんに私の気持ち、明かしてしまつてしまふよ~。

お約束、守つてくださいませね~。

はい、それを聞いて安心いたしました♪

では、食堂でお待ちしております♪

メイド・ア・ベイ

董

9：お休みなさいませ、旦那様（自室／夜／夕飯後）

（ノックの音）

（位置右・遠く／有声音／ドア越し）

旦那様、メイド長の董でゾヤります。

就寝の準備はお済でしょうか？

はい、では失礼いたします。

（ドアの開閉音）

（位置右・遠くから正面・中間へ移動しながら／有声音／やや小声）

旦那様、お夕飯はいかがでしたか？

（位置正面・中間／有声音／やや小声）

左様で…満足いただけた様で、なによっゾヤります。

それでは旦那様、まだお早い時間ではゾヤりますが、就寝いたしましょう。スペシャルリラクゼーションゾンターは、いつも通り寝かし付けで。ええ、今回は私がお勧めいたします。では早速、私もベッドに…。

失礼いたします。

（布団が擦れる音）

（位置左・近く／有声音／かなり小声）

旦那様、お布団をおかけいたします。

（布団をかける音）

お布団、とても温かいですね♪

まだ夜は肌寒い日が続いております。

お風邪を召されません様、お気を付け下さいませ。

私たちメイドも、旦那様の健康を第一に、願っております。

ええ、そのためのスペシャルリラクゼーションゾンター、なのですが。心身共にリフレッシュしていただく日…。

本日のメイドたちによる癒し、いかがドリ过去了か?  
ええ……ええ……。

左様で…。

ではメイドたちにお伝えしておきましょう。

「旦那様は大変感謝しておられた」と。

さて、旦那様。

あまりお話ばかりしていれば、眠気が覚めてしまします。

(子供に言い聞かせる様に)

いいえ、いけません。

休日だからと、夜更かしをしてしまっては、明日（あす）に影響いたします。  
ですから口を閉じて、なくんにも考えず、お眠りになつて下さい。  
旦那様がお眠りになるまでが、スペシャルリラクゼーションナー。  
しっかりと見守つておりますから、「安心を。

はい、どうぞれましたか?

手を?

もう、急に甘えん坊になられて…。

ああ、いえ。

手、つなぎましようね♪

(手を繋ぐ音)

はい、しっかりと握つております。

旦那様がお眠りになるまで…。

いえ、お眠りになつたあとも、いつつて握つておりますので、「安心下さい」。  
それでは旦那様、お休みなさいませ。

(浅い呼吸音) すくふく、すくふく、すくふく、すくふく。

ん、はい、まだなにか?

「なにかお話を」でござりますか…。

ふむ…では、神話のお話、とある忍（しのび）のお話、  
猫と喫茶店のお話、どれにいたしましょう？

ふふつ・

相変わらず旦那様は、可愛いお話が好きなのですね♪  
では、猫と喫茶店のお話をいたしましょう。

### 「猫と喫茶店：主要キャラ」

マ・喫茶八雲のマスター（八十五歳・男性）

ス・野良猫のスサノオ（スーさん）（十五歳・オス）

（位置左・近く／有声音／かなり小声／絵本を読む様にゆっくり）

猫と喫茶店。

「」はとある町。

今朝も雀たちが寄り添い、せわしなく挨拶を交わしています。

喫茶八雲（やくも）のマスターもまた、お店の準備に追われていました。  
お店から路地に出たマスターに、一匹の猫が声をかけました。

ス「よう、マスター。おはよう。朝から精が出るねえ。」

野良猫のスサノオです。

マ「やあ、スーさん。おはよう。」

マスターも挨拶を返しました。

マスターとスサノオは、気心の知れた仲で、毎朝こうして挨拶を交わします。

ス「マスターももう若くないんだ。

そんな重そうな物を持つて、平氣なのかい？」

コーヒー豆の麻袋を担ぐマスターに、スサノオはいつものジャブを出します。

マ「スーさん」ん、もういい歳じゃないか。

足腰が弱って、高い所へ登るのも楽じゃないだろ？

マスターも負けていません。

するとスサノオは悲い顔をして「」と言いました。

ス 「まあそだな。若い時はひとつ飛びで登れた壇も、

今じゃよじ登るのが精一杯だ。情けない。」

お互いの老いについて少し話したあと、マスターが話題を変えました。  
マ 「と」でスタート。朝ご飯を食べに来たんだろう？

今用意するから、少し待ってくれるかな。」

そういつとマスターは麻袋を抱ぎ直し、店の中へと消えていきました。  
少し経ち、マスターがトレイを持って帰つてきました。

マ 「ほう、スーセン。いつも安いエサで悪いが、我慢してくれ。」

申し訳なさそうな顔のマスターに、スサノオは「」返しました。

ス 「エサにあり付けるだけでも幸せつてもんだ。いつもすまんね。」

そういつとスサノオは、ムシャムシャと、元気にエサを食べ始めました。  
マスターは「」と笑い、スサノオの頭を撫みました。

喫茶八雲は飲食店ですから、スサノオを店に入れる事は出来ません。  
店の外でエサを食べる。

喫茶八雲のいつもの光景でした。

しばりぐするとマスターは立ち上がり、スサノオに「」と言いました。

マ 「じゃあスーセン、私は店の準備があるから行くよ。」

腰をグイッと伸ばしていくマスターに、スサノオは軽く会釈しました。  
それを見たマスターはまた「」と笑い、店の中へと消えていきました。  
スサノオはエサを食べ終えると、ペロペロと口の周りを掃除しました。  
水もたっぷり飲んで、お腹は一杯です。

スサノオは陽の当たる場所へ移動すると、「」と寝転がりました。  
日課の毛繕いの時間です。

ゆっくり時間をかけ、全身の毛並みを整えました。

毛繕いを終える頃、聞き慣れたアベルの音が鳴りました。

カラカラ。

喫茶八雲の開店時間です。

この日も朝から、常連たちで賑わっているのが、壁越しにでも分かりました。

昨日の野球結果を語る、どじかのお父さん。

孫の成長を嬉しそうに話し合つ、おば様たち。

今朝の新聞を、いつもの席でめくぶお爺さん。

今日も喫茶八雲は盛況です。

スサノオはそんな会話や物音に、時々ピクリと耳を動かして反応しました。

何気ない朝。いつもの朝。

これが喫茶八雲の朝。

チュンチュン、チュンチュン、雀の挨拶。

ムシャムシャ、ムシャムシャ、いつものエサ。

ペロペロ、ペロペロ、毛繕い。

カラカラ、カラカラ、ベルの音。

ガヤガヤ、ガヤガヤ、賑わう店。

喫茶八雲はお昼過ぎになると、いつも落ち着きます。

この日も午後一時には、お客さんもまばらになりました。

すると店内からマスターが現れ、スサノオをツンツンと突きました。  
ポカポカ陽気に当たられ、スサノオはいつの間にか眠っていた様です。  
寝起きのスサノオにマスターは一口つと笑い、言いました。

マ「スーさん、随分とグッスリ眠っていたね。もう昼過ぎだよ。」  
スサノオは襟を正して返しました。

ス「いやあ、店先ですまない。邪魔だつたかな。」

マスターは首を横に振つて言いました。

マ「邪魔だなんて思つていないよ。スーさんはウチのマスクナットなんだ。

常連さんにも聞かれるんだ。スーさんは元気?ってね。」

スサノオは少し驚きました。

ス「へえ、オレみたいな野良猫がマスコットね。」

照れくさうなスサノオに、マスターが追い打ちをかけます。

マ「スーサンが居てくれるお陰で、ウチも繁盛しているんだ。

まさに招き猫だ。」

スサノオは恥ずかしさの余り、顔を手で覆い隠してしまいました。

ス「おいおいマスター、もつよせって。

こんな老いぼれでボロ猫のどこがいいんだか。」

マスターは意地悪な顔で笑うと、急に真剣な表情をして言いました。

マ「なあ、スーサン。私は近い内にこの店を置むよ。」

スサノオはギョッとして問いかけました。

ス「随分と急じゃないか。どこか悪いのかい?」

するといつもの優しい顔に戻ったマスターが、慌てて返しました。

マ「いやいや、どう訳じやない。だが私ももう八十五だ。

コーヒー豆の袋を運ぶのも精一杯でね。それから限界だよ。」

確かにその歳ともなればガタがくる。

そう考えたスサノオは妙に納得しました。

そしてふと気になつた事を尋ねました。

ス「マスター。やつを店を置むと云つたな?」

つてことは店を継ぐヤツが居ないつて事かい?」

マスターは寂しきな顔で、コクリと頷き、意外な事を口にしました。

マ「なあ、スーサン。ウチの家族にならないか?」

スサノオは今の言葉を理解できず、反芻しました。  
しばらくしてハツとなり、聞き返しました。

ス「随分と唐突だな。オレがマスターの家族に? なんの冗談だい?」

マスターは再び真剣な顔になり、話を続けました。

マ 「本氣ヤ」。

ウチが飲食店だつたから、猫は保護できなかつた。  
だからね、ずっと後ろめたヤを感じていたんだ。  
だが店を置むとなれば、話は別だ。

スーセン。お前さんと堂々と迎えられる。

なあ、どうだ。私の家族になる気はないかな?」

嬉しい様な、恥ずかしい様な複雑な感情が、スサノオの心をかき乱しました。  
少しの間考えていたスサノオは、マスターに尋ねました。

ス 「なあマスター、オレなんかを家族に迎えたって、

老い先長くはないんだ。後悔するかもしれない。」

マスターはそれを聞いて吹き出しました。

マ 「あつはつは。それは私も同じヤ。いつポックリ行くかも分からんよ。」

スサノオはそれを聞いて吹き出しました。

ス 「あつはつは。違ひねえ。だつたらよお、よろしく頼むわ。」

そう言つとスサノオは手を差し出しました。

マスターも手を差し出しました。

ハイタツチならぬニヤンタツチを交わし、家族の契りを誓いました。

マスターはふう…と息を吐くと、一コつと笑つて言いました。

マ 「なあ、スーセン。わたくしお腹が空いてるんぢやないか?」  
するとスサノオも一コつと笑い、言いました。

ス 「流石、分かつてゐね。」

腰をグイッと伸ばしていくマスターの足に、スサノオは頭を擦り付けました。

マスターは待つてゐる様にと合図をして、店の中へと消えていきました。  
少し経ち、マスターがトレイを持って帰つてきました。

マ 「ほう、スーセン。今夜はいいエサを用意してゐたんだ。お食べ。」

自慢気な顔のマスターに、スサノオはこう返しました。

**ス**「いいつあ美味そつだ。早速頂くとしよう。」

そう言つとスサノオは、ムシャムシャと、元氣にエサを食べ始めました。マスターは一口つと笑い、スサノオの頭を撫でました。

そして持つて来たウイスキーをグラスに注ぎ、ちびりと一口飲みました。それを見たスサノオは、悪戯っぽく尋ねました。

**ス**「おいおいマスター、まだ店終いもしてないのに、いいのかい？」

それを聞いたマスターは、悪戯っぽく言いました。

**マ**「構うもんか。今日はめでたい日だ。特別だよ。ほう、ステッテンもエサ、食べなよ。」

スサノオは満面の笑みで高きうなエサを頬張りました。

マスターはエサのトレイにコツンとグラスを当てる、言ひました。

**マ**「乾杯。ようこそ我が家へ。」

スサノオは照れながらも返しました。

**ス**「店はまだ畳んでないだろ。気が早くないかい？」

マスターは「もうだつた」という顔をして苦笑いしました。

しかしその町には、キラリと光るものが見えた気がしました。

スサノオはゴロゴロと喉を鳴らし、喜びました。

マスターはカラカラとグラスを揺らし、微笑みました。

夕日はキラキラと一人を照らし、祝福しました。

「ここはとある町。

」ながらでも、あちらでも、町の明かりが灯り始めました。ちょうどその頃、喫茶八雲の明かりが消えました。

今日も閉店時間を迎えたのです。

店先の路地に、スサノオとマスターの姿がありました。

スサノオは嬉しそうに、マスターの足下を行つたり来たりしています。

二人はとても幸せでした。

「れまでもうひとつ。  
「れからもずっと。  
おしあこ。